

## お詫び

「学校だより 第4号」の記事の中で、甲府空襲を「87年前」と表記してしまいました。正しくは「78年前」です。訂正してお詫び申し上げます。

令和5年4月18日に、全国一斉の全国学力・学習状況調査が行われました。6年生が調査の対象になります。

全国学力・学習状況調査は、学力の順位をつけるものではなく、児童・生徒の学習の様子を検証し、教育活動を改善していくことを目的としています。本校は、全ての教科において全国・山梨県の平均値を上回っていますが、統計的な計算を参考にするならば、全国・山梨県・本校の平均値に「差はないに等しい」という判断ができます\*1

地域や保護者の皆様に結果の分析を根拠とした、本校の傾向を報告いたします。

\*1 得られたデータから効果量（Cohenのd）を求めて、2標本の平均値がどれだけ離れているかを計算しました。全国と本校、全国と山梨県、山梨県と本校の平均値についていずれも効果量は0.2以下であり、それぞれの平均値は差がないに等しいと判断することができます。（全国学力・学習状況調査「平均ゾーンシステム」([https://ds-efa.info/data\\_analysis/](https://ds-efa.info/data_analysis/))を参考にしました。）

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の集計から



## 本校の「学力」の状況

まず、本校の「学力」の状況について、教科別に紹介します。一つ一つの結果を精査して、他の設問に比べて誤答が多かった設問について傾向と対策をまとめました。



## 国語科の結果から

国語科の結果を分析すると、2つの課題が浮かび上がってきました。

1つ目は、漢字の学習の定着です。漢字に関する設問で本校の結果を見ると、全国や県と比べて誤答が多く見られました。漢字の学習については、新出漢字を1つずつ取り上げ、書き順や、部首、成り立ち等について確認しながら丁寧に扱ってきましたが、時間がたつと定着が薄れてきてしまったようです。今後は、文を書くときに既習の漢字を積極的に使用するよう呼びかけたり、新しく出てきた漢字と既に学習した漢字を関連付けたりして、繰り返し漢字に触れさせ、定着を強化していきます。

2つ目は、問題を解く時間に関する課題です。今回の国語科の調査では、文章で回答する設問が3問出題されました。文章で自分の考えを回答する設問に対しては、全国の結果を見ても誤答が多く見られました。本校の結果を見ると、前半の設問では、誤答が少ないのに、後半

の設問では誤答が多くなっていました。後半の設問では、全体の4分の1が無回答でした。最後にあるアンケートを見ると、「時間が足りなかった」と回答する児童が多く見られました。本校の児童は設問に回答するのに時間がかかるようです。全校学力調査は普段行っているテストと形式がかなり異なります。時間の配分がうまくいかなかったのかもしれませんが、今後、児童から話をよく聴き、時間が足りなかった原因を分析し、効率よく調査問題に解答していく方法を検討していきます。



## 算数科の結果から

算数科では、2つの設問で誤答が多く見られました。

1つ目は、三角形の面積の求め方に関する設問です。多くの児童が「底辺×高さ÷2」という公式は覚えているようです。しかし、公式は覚えるだけでは十分ではなく、理解する必要があります。この設問の誤答を見ると、「底辺とは何か。高さとは何か。」を理解できていない児童が多くいたようです。

今後も算数科の学習では、切ったり、作ったり、調べたり等の数学的な活動を多く取り入れ、機械的に覚えるのではなく、実感を伴って理解する場を多く設定していきます。

2つ目は、文章を読み取り、条件に合う数値を表から読み取る設問です。「文章」と「表」はタイプの異なる情報です。提示された文章には、複数の数値や観点が提示され、また、表にも多くの情報が表記されています。

グラフや表、文章の中にある多数の情報から、必要な情報を読み取り、問題解決に活用する経験を、算数の学習だけでなく他の教科においても多く設定し、情報を活用する能力を養っていきます。



## 生活習慣や学習環境等の状況

「生活習慣や学習環境等に関する調査」結果として、全国と本校の平均値が報告されています。全国の平均値と本校の平均値との間に差があるかどうかは、統計的な計算で判断しています。<sup>\*2</sup>

## 家庭での学習・生活習慣

本校の結果を見ると、例年、「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」に対して「している」と答える割合が全国と同程度に高い数値を示しています。各家庭におけるご指導に感謝しております。本年度の結果では、「毎日同じくらいの時刻に起きている」に関しては、「している」と答える割合が全国と比べて少ない結果となりました。学校では子どもと話をし、実態を把握して参ります。各ご家庭でもご指導をお願いします。

学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどのくらいの時間、勉強や読書をしているかという設問に対しては、全国よりも短い時間を回答していました。一方で、「読書は好きか」の設問に対しては、全国よりも好きと答える児童が多く見られました。もしかしたら、学校外での児童はとても忙しいのかもしれませんが。児童の生活の様子を把握しながら、個に対応した家庭学習の方法を提案して参ります。

## 学校での学習・生活習慣

2つの設問において、全校と本校の平均値に有意な差が見られました。

1つ目は、「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになった」という設問です。「当てはまる」が全国よりも少なく、「どちらかといえば、当てはまる」が全国よりも多く見られました。相川小学校では、指導の個別化や学習の個性化が実現できるよう研究に取り組んでいます。人手が足りない中、とても難しい取組ですが、ICTを活用して実現に向けて努力してまいります。

2つ目は、「あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決法を決めている」という設問です。「当てはまる」が全国よりもかなり高い数値を示しています。相川小学校では、数年前より、学級経営に重点を置いた学校経営に取り組んでいます。何よりも学級を大切にすることにより、穏やかで落ち着いた学校生活が実現するよう取り組んでいます。一人一人の児童の考えが学級会に反映されるよう、1人1台端末を活用した学級会も実施されています。今後も、児童一人一人が主人公となる学級づくりに取り組んで参ります。

<sup>\*2</sup> 2つの比率の差を検定するために、カイ二乗検定の計算を行いました。検定には、keisan (<https://keisan.casio.jp/>)を利用しました。

## 令和5年度通学路安全点検



8月9日に、令和5年度の通学路安全点検が行われました。甲府市教育委員会、甲府市関係職員、甲府警察署署員、相川小学校教頭が、通学路点検箇所を視察し、行政と警察の対応を検討していきます。点検箇所は、1学期にPTA教育研修部の皆様に実施していただいた通学路点検を参考に作成しました。詳細につきましては、次の学校だよりにて報告いたします。



文責：校長 桐山 賢一